

令和 6 年度
第 65 回定例総会 議 案 書

令和 7 年 4 月 18 日（金）13：30～14：50

富山市 NIX ホールでの対面 & オンライン



HOKURIKU Branch of The Japanese Geotechnical Society
公益社団法人 地盤工学会 北陸支部

目 次

1. 令和6年度の事業報告	3
まえぶん	
1) 総会・商議員会・幹事会の開催	
2) 研究発表会・シンポジウム・講習会、現場見学会等の開催	
2. 常設委員会活動報告	9
1) 表彰委員会	
2) ユースネットワーク委員会	
3) 令和6年度液状化マップ検討委員会	
4) 新潟地区WG3「若手技術者ネットワーク活動」委員会	
3. 令和6年度決算報告	15
1) 決算書	
2) 会計監査報告	
4. 本部・支部表彰	18
1) 永年会員への感謝状の授与	
2) 支部表彰の授与	
5. 令和7年度の事業計画	20
まえぶん	
1) 総会・商議員・幹事会の開催	
2) 研究発表会・シンポジウム・講習会、現場見学会等の開催	
3) 新規委員会の設立について	
4) 令和6年度役員案	
6. 令和7年度の予算	23
7. 特定資産の創出につきまして	24
8. その他	26

1. 令和6年度の事業報告

まえぶん

1. 公益出版事業〔公1〕

令和6年能登半島地震被害調査をもとに「液状化しやすさマップ新潟県版、富山県版、石川県版」の改訂の準備を国土交通省北陸地整と協力しながら行った。流水客土技術関連資料集DVDの拡販を引き続き行う。大学の先生方の講師によって実施された「土質力学講座5回シリーズ」の資料を印刷製本する準備を行った。

2. 調査・研究事業〔公2〕

災害協定を締結している国土交通省北陸地方整備局、新潟県、富山県、石川県、新潟市と防災、減災関連などの企画で相互協力した。若手技術者ネットワークの構築、学生会員によるユースネットワーク研究発表会、講習会、講演会、コロキウム、実務者報告会、現場見学会など実施した。

3. 技術推進事業〔公3〕

災害協定に基づき自治体職員に対する研修会を開催した。大学の先生らによる土質力学講座をシリーズ形式で実施した。セミナー、現場技術者のための講習会、実務者報告会を対面とオンラインのハイブリッドで実施した。建設コンサルタンツ協会、地質調査業協会など関連学会協との連携を強化し、支部活動の活性化と新規会員の獲得を目指した。

4. 表彰関連事業〔公4〕

支部賞として、論文部門研究功績賞、論文部門研究奨励賞、技術部門技術賞、企画部門企画賞、功績部門功績賞の募集を行い、優れた活動・業績を表彰した。

1) 総会、商議員会、幹事会の開催

(1) 第 64 回定例総会

日 時：令和 6 年 4 月 23 日(火)13：30～14：50

形 式：金沢勤労者プラザでの対面と Zoom によるオンライン形式

対面参加 31 名、オンライン参加 22 名、委任状 29 名 計 82 名

(2) 商議員会

日 時：令和 7 年 2 月 20 日(木)13:30～14:50(本日)

形 式：Zoom によるオンライン形式

商議員参加者： 29 名 委任状 4 名 計 33 名

(3) 新潟地区幹事会（WG3 若手ネットワーク活動について）

日 時：令和 6 年 5 月 21 日（火）15:00～18:30

形 式：新潟大学駅南ときめいにて対面とオンライン

参加者： 7 名 若手技術者 16 名

(4) 石川地区幹事会

日 時：令和 6 年 6 月 3 日(月)18:00～

場 所：金沢勤労者プラザ

参加者： 14 名

(5) 富山地区幹事会

日 時：令和 6 年 5 月 17 日（金曜日）16:00～

場 所：富山県立大学（富山県射水市黒河 5180） 中央棟

参加者： 7 名

2) 研究発表会・シンポジウム・講習会・現場見学会等の開催

(1) 総会時の特別講演会

日 時：令和6年4月23日(火)15:00～17:30

形 式：金沢勤労者プラザでの対面&ZOOMによるオンライン

題 目：「脆弱岩および破碎土の工学的性質と現場対応事例その1」

講師：(株)高速道路研究所 土工研究室長 田久 勉 氏

題 目：「脆弱岩および破碎土の工学的性質と現場対応事例その2」

講師：中日本高速道路(株)東京支社 東京支社工事事務所外環大泉工事区

工事長 永田 政司 氏

参加人数 123 名

(2) 地盤工学会と富山県との災害協定に基づく研修会

日 時：令和6年8月28日(水)13:30～16:40

形 式：ZOOMによるオンラインとNIXホールでの対面形式

題 目：能登半島地震による液状化被害と復興

講 師：東京電機大学 名誉教授 安田 進 氏

題 目：日本海沿岸の海底活断層と津波

講 師：東京大学地震研究所 名誉教授 佐竹 健治 氏

参加者 168 名

(3) 西部緑道地下貯留施設設置工事現場見学会

日 時：令和6年9月6日(金)14:00～16:00

形 式：バスを使つての現地見学

場 所：金沢市西部緑道地下貯留施設設置工事現場

参加者 29 名

(4) 2024年度地盤工学に関わる実務者報告会：石川地区

日 時：令和6年9月13日(金)13:30～17:10

形 式：近江町交流プラザでの対面とオンライン形式

題 目：高速道路における土工構造物の点検と対策事例

講 師：中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)

名古屋支店 道路技術部 上席研究員 山崎 充 氏

題 目：能登群発地震による山腹崩壊状況と斜面安定対策例

講 師：株式会社ホクコク地水 技術部 2 課 課長 藤島 雅也 氏

題 目：令和6年能登半島地震の対応について

講 師：国土交通省北陸地方整備局 金沢河川国道事務所 工務第二課 課長
中川 英男 氏

題 目：基調講演 「能登半島北東部の群発地震と令和 6 年能登半島地震」

講 師：金沢大学理工研究域地球社会基盤学系 教授 平松 良浩 氏

参加者 171 名

(5) 第 19 回 地盤調査法講習会

日 時：令和 6 年 10 月 11 日（金） 13:00～15:10

場 所：国土交通省 北陸地方整備局 北陸技術事務所 敷地内

講習内容：

(1) 原位置試験（ボーリングコア説明，サウンディングの講義と実技）

(2) 室内土質試験（土質試験の講義と実技）

(3) 3次元測量（3次元測量の講義と実技）

参加者 25 名

(6) R6 土質力学講座 第 1 回

日 時：令和 6 年 11 月 12 日（火） 16:00～17:30

形 式：Zoom によるオンライン形式

題 目：【土の基本的性質と浸透】

講 師：福元豊先生（長岡技術科学大学），金澤伸一先生（新潟大学）

参加者 35 名

(7) 現場技術者のための土質力学：第 11 回

日 時：令和 6 年 11 月 25 日（月） 13:30～16:45

場 所：石川県地場産業振興センター

題 目：能登半島地震 道路に関する被災状況について

講 師：富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 助教

竜田 尚希 氏

題 目：山地の利用計画における地形情報の活用

講 師：石川県立大学 生物資源環境学部 教授 大丸 裕武 氏

参加者 24 名

(8) R6 土質力学講座 第 2 回

日 時：令和 6 年 11 月 28 日（木） 16:00～17:30

形 式：Zoom によるオンライン形式

題 目：【軟弱地盤の盛土設計の基礎と観測的施工法】

講 師：大塚悟先生(長岡技術科学大学)

参加者 37 名

(9) 第 4 回 JGS 北陸支部ユースネットワーク研究発表会

日 時：令和 6 年 12 月 11 日(金) 13:00～17:00

形 式：Zoom によるオンライン形式

プログラム

研究発表 (13 時 05 分～17 時)

学生による研究話題提供 発表時間 9 分以内、質疑 4 分

参加者 48 名

(10) R6 土質力学講座 第 3 回

日 時：令和 6 年 12 月 20 日(金) 16:00～17:30

形 式：Zoom によるオンライン形式

題 目：【豪雨災害時の降雨パターンと地質（地域性）の関係】

講 師：高原 利幸 先生(金沢工業大学)

参加者 39 名

(11) R6 土質力学講座 第 4 回

日 時：令和 7 年 1 月 22 日(月) 16:00～17:30

形 式：Zoom によるオンライン形式

題 目：【地震時残留変形量を求める～地震応答解析を併用した詳細なニューマーク法～】

講 師：新保 泰輝先生(石川工業高等専門学校)

参加者 34 名

(12) R6 土質力学講座 第 5 回

日 時：令和 7 年 2 月 19 日(水) 16:00～17:30

形 式：Zoom によるオンライン形式

題 目：【液状化 新潟地震から能登半島地震に至る様々な液状化被害がなぜ発生し、危険度をどう予測し、どう対策するかについて、液状化の発生メカニズムを軸に解説する。】

講 師：保坂 吉則 先生(新潟大学)

参加者 33 名

(13) 商議員会時の特別講演会

日 時：令和 7 年 2 月 20 日(水) 15:00～17:30

形 式：Zoom によるオンライン形式

題 目：「令和6年能登半島地震による新潟市内における液状化発生の特徴」

講 師：坂東 和郎 氏 (株) 興和 事業開発本部長

題 目：「令和6年能登半島地震による地盤災害と見えてきた課題」

講 師：高原 利幸先生 (金沢工業大学)

参加者 87 名

(14)第88回土質工学最新情報コロキウム (予定)

日 時：令和7年3月3日 (月) 13:40～16:30

形 式：Zoom ウェビナーを利用したオンライン

題 目：災害初動時における仮置場管理等における 留意点

講 師：遠藤 和人 氏

国立環境研究所 福島地域協働研究拠点 (廃棄物・資源循環研究室) 室長

題 目：災害廃棄物処理技術における、主に二次仮置場を中心に、東日本大震災や豪雨災害等での廃棄物処理業務などで経験した実務と課題に関する話題

講 師：大塚 義一 氏

株式会社奥村組 技術本部 環境技術専門部長

題 目：(仮題) 災害廃棄物処理支援システムの提案

講 師：中野 正樹 氏

名古屋大学大学院工学研究科 土木工学専攻 地盤工学 教授

参加者 35 名

(15)第89回土質工学最新情報コロキウム (予定)

日 時：令和7年3月18日 (火) 13:30～16:30

形 式：Nix ホールでの対面と Zoom ウェビナーを利用したオンライン

題 目：液状化抵抗の室内、原位置試験による考え方、地盤情報を用いた被害想定
の考え方

講 師：三村 衛 氏 (京都大学名誉教授)

題 目：能登半島地震での液状化被害について

講 師：古谷 元 (富山県立大学教授)

参加者 94 名

2. 常設委員会活動報告

1) 表彰委員会

委員会の開催：

令和6年2月14日（金） 17:00～18:30 第1回表彰委員会（オンライン），

出席：大塚，兵動，森影，倉重，黒坂，村尾，阪田（敬称略）

2. 審議内容

研究・論文部門1件，功績部門6件の推薦がなされており，それぞれの推薦可否について議論した。昨年度の表彰委員会での議論に基づいて，支部に多大の貢献をされた会員には功績部門での表彰を積極的に推薦することとした。

研究・論文部門は金沢大学の熊 曦氏の「FEM analysis on isotropic consolidation of unsaturated soils using ceramic disks and microporous membrane filters for suction control」で，功績部門として，歴代の支部役員を務められた金子敏哉氏，松本樹典氏，杉本利英氏，門木秀一氏，宮島昌克氏，岩田英二氏の推薦について審議された。

3. 審議結果

1) 研究・研究部門 論文奨励賞

熊 曦 氏

対象論文：

Xiong, X., Kobayashi, S., Izumi, H., and Zhang, F. (2024). FEM analysis on isotropic consolidation of unsaturated soils using ceramic disks and microporous membrane filters for suction control.

Geotech. Test. J. 47(6): 1275-1297. <https://doi.org/10.1520/GTJ20230439>

不飽和土の三軸試験において，セラミックディスクと微細多孔膜を用いたサクション制御試験試験への影響について，実験並びにFEM解析を実施したものである。FEM解析では気体-液体-固体の連成有限要素法を用いており，フィルターの透水性ではなく厚さがサクションの平衡過程に影響を与えることを明らかにしている。

2) 功績部門 功績賞

金子敏哉 氏

氏は，北陸支部選出理事および副支部長の要職を歴任され支部活動の発展，現場技術者の技術力の向上に多大な貢献をしてこられた。特に，新潟地区の研究事業等においては，委員会の取りまとめや活動推進にも尽力された。

松本樹典 氏

氏は石川支部内で支部長をはじめとして要職を歴任され長年にわたり北陸支部のためにご尽力いただいた。また，地盤に関係した学会，協会の役員等を歴任され，学術的な面に加えて現場技術

者の技術力の向上に努められた。

杉本利英 氏

氏は副支部長や富山支部の役員を務められ、長年にわたり学会活動に寄与された。特に富山地区の支部行事の運営に尽力され、液状化しやすさマップの取りまとめに際しては、多大な貢献をされた。加えて、行政（主に国土交通省）と学会を繋ぐ形で北陸支部の事業展開においても尽力された。

門木秀一 氏

氏は副支部長や幹事長など富山支部の役員を務められ、学会活動に寄与された。特に富山県開催の地盤工学研究発表会の際には、会計担当として発表会を大成功へと導かれた。また支部行事の運営に尽力され、現場技術者の技術力の向上に貢献された。

宮島昌克 氏

氏は、長年にわたり、石川支部の活動に寄与されるとともに、北陸支部選出理事を務められた。特に、地震災害等における災害調査では精力的な活動を行い、地震防災の啓蒙に努めるほか、地域の防災力の向上に大きく貢献された。また、国際地盤災害軽減機構理事長として金沢で国際会議を開催されるなど、北陸地域の地盤工学の発展に貢献された。

岩田英二 氏

氏は、長年にわたり富山支部の支部行事の運営に尽力された。また、北陸支部選出理事を務められるなど、地盤工学の発展と向上に多大なる貢献をされた。加えて、行政（主に国土交通省）と学会を繋ぐ形で、北陸支部の事業展開においても尽力され、実務に携わる現場技術者や行政官の技術の向上に努められた。

2) ユースネットワーク委員会

第4回 JGS 北陸支部ユースネットワーク研究発表会の開催報告

- ・北陸支部ユースネットワーク 第4回研究発表会
- ・開催日時：2024年12月11日(水) 13:00～16:55
- ・会場：ハイブリット（金沢大学、新潟大学（Zoom Meeting 併用））
- ・参加人数：48名（金沢大学23名、新潟大学25名）

北陸支部ユースネットワーク委員会では、昨年に続き、学生を対象とした標記イベントを開催しました。地盤工学に関心のある学生間の地域ネットワークを構築し、各自の研究活動のモチベーションを高めてもらうこと、また支部活動の活性化を促すことを目的として開催しました。

今年度の研究発表会は、初の試みとしてハイブリッド形式（金沢会場・新潟会場）で実施しました。2拠点を活用したハイブリッド開催は盛況で、多くの参加者から高い評価を得ました。また、オンラインと現地参加の双方を組み合わせたことで、より多くの参加者間での交流が可能となり、活発な意見交換やネットワークの機会が増えた点も大きな利点として挙げられます。

研究発表会に先立ち、小林委員長からは「本研究発表会は北陸支部のさらなる発展を目指し、若手のネットワーク構築や交流の場としての活用を意識して企画されました。今回は初のハイブリッド形式ということで、次世代に繋がる研究会の基盤となり、北陸支部のさらなる発展を支える一助となることを期待しています。」との挨拶がありました。

研究発表会はハイブリッド形式（Zoom Meeting）にて開催しました。計 14 件（前半 7 件、後半 7 件）の研究発表がありました。発表者 14 件すべてを発表賞として表彰しました。

3) 令和 6 年度液状化マップ検討委員

委員会の主旨

北陸地整が 2011 年～2012 年にかけて公表した、新潟版および富山・石川版の「液状化しやすさマップ」の作成に本支部は協力した。液状化のハザードマップは各市町村が作成するようにとされていた時代で、地方自治体では総務省のマニュアル通りに作成することも難しく、2004 年新潟中越地震の知見を活かし独自のマップ作成を行った。

国交省は、2011 年東北地方太平洋沖地震後の 2013 年に都市局がハザードマップ作成のマニュアルを整備し、令和 6 年能登半島地震を契機として全国的にマップの作成を推進する意向である。現在の北陸地整版「液状化しやすさマップ」はこのマニュアルには基づいていないものの、今回の地震による液状化被害を受けてマップの検証を行い、その知見も活かし、学会の各支部の協力を得ながら新たなハザードマップを作成する計画である。

北陸地整からは、検証作業における助言を求められているに過ぎないが、支部独自の検証を行うことも目的として本委員会を立ち上げたものである。

委員会の開催

2024 年 9 月 9 日 9:30～10:30 オンライン（第一回委員会）

参加者：豊田先生、金沢先生、坂東氏、原先生、竜田先生、杉本氏、村尾氏、小林先生、斉藤氏、西川氏、森影氏、玉村氏、新保先生、加納先生

2024 年 12 月 25 日 14:00～15:00 オンライン（第二回委員会）

参加者：先名氏、豊田先生、保坂先生、原先生、竜田先生、兵動先生、小林先生、西川氏、森影氏、玉村氏、新保先生、金子氏、菅原氏、上田氏、寺崎氏、武井氏

（2024 年 5 月 17 日 11:00～12:00 に事前説明会も実施し委員を募った。）

北陸地整のヒアリング

第一回：2024 年 11 月 11 日 13:00～15:00

第二回：2024 年 2 月 18 日および 2 月 19 日（予定、報告書作成時未実施）

活動内容

2024 年 5 月 17 日の事前説明会で、これまでのマップ作成の経緯や取り組む課題、国交省の動向等

を説明し、広く委員を募った。その中で歴史地震における液状化被害地点の把握や江戸時代以降の地形の変遷を追う必要性が挙げられ、第一回の委員会でヒアリング前に古文書の分析をされてる東京大学の加納先生を委員就任を依頼し、快諾を得た。また、被害の全体像を集めようとしたが支部だけでは難しく、防災科学研究所の先名博士にも委員に加わっていただき、新潟から福井県までを網羅した 250m メッシュでの被災箇所のデータのご提供を頂いている。

第一回の国交省のヒアリングは、選定業者の紹介と方針の説明、意見交換が主であり、第二回が主たる協議となる。国交省自体は、都市局のマニュアル通りに進めたいと考えているようで、今回の検証にはあまり重きはおいていないと思われたため、当委員会としては別途独自のまとめを行う予定である。

古文書の解析は加納先生のご体調を崩されたということで、あまり進んでいないが、先名博士から提供を受けたデータから、現在の「液状化しやすさマップ」との比較検討を進めて、第二回のヒアリングに望む予定である。

主な問題点としては、被災箇所によって震度も異なるため、被災があったかどうかだけの判定は難しいこと、道路橋示方書の計算方法もすでに 2 回変更になっていること、建築基準との違い、新潟版と富山・石川版の違い、地下水位の特定の問題、地形の変遷の取り入れ方（ベースマップ）、震動継続時間、側方流動の可能性の取り入れ方などが挙げられている。

すべての委員会の議事録、動画は下記にあり、会員の皆さんは自由にご覧ください。

<https://drive.google.com/drive/folders/1tzv2MMgUjG9bnza9NVcPV5W7GkB101q5>

委員会名簿

氏名	所属組織
豊田 浩史	長岡技術科学大学
久保田 宏	オムニ技研 株式会社
杉本 利英	株式会社 ニュージェック
村尾英彦	株式会社 村尾地研
杉山茂久	三和ボーリング株式会社
土田尚	三和ボーリング株式会社
小林俊一	金沢大学
高原利幸※	金沢工業大学
先名 重樹	(国研) 防災科学技術研究所
保坂吉則	新潟大学
金澤伸一	新潟大学
田口雄一	不動テトラ
金子敏哉	株式会社 キタック
菅原渉平	株式会社 キタック
沼澤輝久	株式会社 日さく
原 隆史	富山大学
竜田尚希	富山大学
兵動太一	富山県立大学
石井 仁美	株式会社アーキジオ
斉藤茂	中部地質株式会社
森影 篤史	(株)日本海コンサルタント
西川幸成	株式会社国土開発センター
河野哲也	富山大学
新保泰輝	石川工業高等専門学校
玉村 清文	アルスコンサルタンツ株式会社
開田 一成	アルスコンサルタンツ株式会社
寺崎 勉	ナチュラルコンサルタント株式会社
武井秀浩	ナチュラルコンサルタント株式会社
藤島雅也	株式会社ホクコク 地水
上田信二	真柄建設
加納 靖之	東京大学

※ 委員長

以上

(4) 新潟地区 WG3「若手技術者ネットワーク活動」委員会

2022 年度、2023 年度に引き続き、年 2 回、若手技術者・学生さんが、日頃携わっていることを発表していただき、相互に理解を深め、技術者ネットワークを作ることを目論み、企画・実施しました。

WG3 の新規メンバーや、学生さんの進級・進学、および今年度新たに活動に応募して下さった方により、年 2 回の行事にそれぞれ 30 人近い方が参加してくださいました。

それぞれの会合で、6～7 件の技術発表・質疑応答をしていただきました。

・技術発表者

(1) 第 1 回=6 件

1-1) 沼澤様(日さく)、1-2) 池田様(村尾技建)

2-1) 関根様(新潟大・院)、2-2) 森川様(新潟大・院)

2-3) 福原様(長岡技大・院)、2-4) 安達様(長岡技大・院)

(2) 第2回=7件

1-1) ティン様(不動テトラ)、1-2) 増田様(前田工織)、1-3) 齊藤様(長岡技大・院)

2-1) 佐藤様(長岡技大・院)、2-2) 柳様(長岡技大・院)

2-3) 湯嶋様(新潟大・院)、2-4) 中島様(新潟大・院)



開催状況(第1回)



開催状況(第2回)

○活動履歴

第1回 日時:令和6(2024)年8月28日(水) 午後 15:00~17:30

会場:新潟市 新潟大学 駅南キャンパスときめいとA講義室(WEB併用)

第2回 日時:令和6(2024)年11月29日(金) 午後 15:00~17:30

会場:新潟市 興和ビル(WEB併用)

参加者名簿

第1回

属性	氏名	所属
建設	ゲン ヴァン ティ	(株)不動テトラ 北陸支店
建設	増田 憲司	前田工織(株) 新潟支店
官	鈴木 智恵	北陸地整 新潟港湾・空港整備事務所
官	菅 遥洋	北陸地整 新潟港湾空港技術調査事務所
設計	藤井 健太郎	開発技建株式会社
建設	齊藤 圭哉	オムニ技研株式会社
学(教)	渡邊祥庸	群馬工業高等専門学校
学生	大平尚輝	北陸先端科学技術大学院大学
学生	柳洸聖	長岡技術科学大学 大学院
学生	佐藤景也	長岡技術科学大学 大学院
学生	齊藤竜也	長岡技術科学大学 大学院
学生	関根 伊吹	新潟大学大学院
学生	森川 陽色	新潟大学大学院
学生	山本 雄輝	新潟大学大学院
学生	劉 子濤	新潟大学大学院
学生	松井 皓紀	新潟大学大学院
学生	湯嶋 颯太	新潟大学大学院
学生	木本 峻史	新潟大学大学院
学生	中島 颯人	新潟大学大学院
学生	齋藤 空	新潟大学大学院
学生	澤 和樹	新潟大学
学生	木部 大輔	新潟大学
学生	服部 泰斗	新潟大学
学生	松野 伊吹	新潟大学
WG3	金澤 伸一	新潟大学
WG3	菅原 渉平	(株)キタック
WG3	鶴巻 駿介	(株)興和
WG3	長谷川和弘	(株)村尾技建
WG3	猪狩 吉弘	八千代エンジニアリング(株)
WG3	石黒 直紀	JR東日本コンサルタンツ(株)

第2回

分類	氏名	所属
地質	沼澤 輝久	(株)日さく
地質	田巻 柊野	新協地質(株)
地質	池田 裕香	村尾技建(株)
地質	鶴巻 駿介	(株)興和
地質	菅原 渉平	(株)キタック
建設	ゲン ヴァン ティ	(株)不動テトラ 北陸支店
建設	増田 憲司	前田工織(株) 新潟支店
官	鈴木 智恵	北陸地整 新潟港湾・空港整備事務所
官	菅 遥洋	北陸地整 新潟港湾空港技術調査事務所
学生	関根 伊吹	新潟大学大学院
学生	森川 陽色	新潟大学大学院
学生	福原 涼斗	長岡技術科学大学 大学院
学生	安達 和希	長岡技術科学大学 大学院
学生	袁 昊	長岡技術科学大学 大学院
学生	山本 雄輝	新潟大学大学院
学生	飯田 輝良	新潟大学大学院
学生	松井 皓紀	新潟大学大学院
学生	湯嶋 颯太	新潟大学大学院
学生	木本 峻史	新潟大学大学院
学生	齋藤 空	新潟大学大学院
学生	澤 和樹	新潟大学
学生	田中 柚希	新潟大学
学生	服部 泰斗	新潟大学
学生	松野 伊吹	新潟大学

20240828発表者

育休中

2. 令和6年度決算報告

1) 決算書

貸借対照表

令和7年3月31日現在

公益社団法人地盤工学会

北陸

公益目的事業会計

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	112,962	784,920	△ 671,958
未収金	0	375,760	△ 375,760
令和5年度分	0	375,760	△ 375,760
前払金	0	19,610	△ 19,610
その他	0	19,610	△ 19,610
預け金	9,532,998	8,458,571	1,074,427
本部	6,532,998	8,458,571	△ 1,925,573
特定資産（みずほ	3,000,000	0	3,000,000
流動資産合計	9,645,960	9,638,861	7,099
資産合計	9,645,960	9,638,861	7,099
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	9,645,960	9,638,861	7,099
正味財産合計	9,645,960	9,638,861	7,099
負債及び正味財産合計	9,645,960	9,638,861	7,099

正味財産増減計算書

令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで

公益目的事業会計

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益	[729, 100]	[1, 085, 760]	[△356, 660]
調査研究・基準事業収益	(403, 600)	(684, 760)	(△281, 160)
その他	402, 600	375, 760	26, 840
講演会等収益	1, 000	162, 000	△161, 000
見学会等収益	0	147, 000	△147, 000
技術推進事業収益	(325, 500)	(401, 000)	(△75, 500)
講習会収益	325, 500	401, 000	△75, 500
雑収益	[287]	[69, 306]	[△69, 019]
受取利息	(287)	(6)	(281)
その他	287	6	281
雑収益	(0)	(69, 300)	(△69, 300)
課税	0	69, 300	△69, 300
本部交付金	[2, 560, 000]	[2, 620, 000]	[△400, 000]
経常収益計	3, 289, 387	3, 775, 066	△485, 679
(2) 経常費用			
事業費	[2, 942, 288]	[2, 791, 869]	[150, 419]
会議費	0	2, 580	△2, 580
旅費交通費	273, 794	129, 680	144, 114
通信運搬費	266, 480	270, 267	△3, 787
消耗什器備品費	96, 997	35, 519	61, 478
印刷製本費	163, 064	124, 080	38, 984
賃借料	212, 520	330, 440	△117, 920
会場使用料	48, 680	158, 580	△109, 900
保険料	3, 150	18, 810	△15, 660
諸謝金	388, 560	418, 493	△29, 933
委託費	1, 180, 000	1, 180, 000	0
広告宣伝費	110, 000	0	110, 000
支払手数料	33, 550	28, 930	4, 620
雑費	165, 493	94, 490	71, 003
経常費用計	2, 942, 288	2, 791, 869	150, 419
評価損益等調整前当期経	7, 099	983, 197	△976, 098

科 目	当年度	前年度	増 減
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	7,099	983,197	△976,098
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	7,099	983,197	△976,098
一般正味財産期首残高	9,638,861	8,655,664	983,197
一般正味財産期末残高	9,645,960	9,638,861	7,099
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	9,645,960	9,638,861	7,099

2) 会計監査報告

会計監査報告

令和7年4月10日

公益社団法人地盤工学会北陸支部 殿

公益社団法人地盤工学会北陸支部

会計監査委員

高橋浩之

会計監査委員

湯川公靖

2024年4月1日から2025年3月31日までの2024年度における会計監査及び業務の監査を行います。以下のように報告する。

- (1) 2024年度公益社団法人地盤工学会北陸支部の収支計算、正味財産増減計算書、貸借対照表は法人の収支状況及び財産状況を正しく示していると認める。
- (2) 業務報告の内容は適正であると認める。

以上

4. 本部・支部表彰

1) 永年会員への感謝状の授与

特別会員表彰

会員番号	社 名
7450360	北電技術コンサルタント株式会社 4 級再表彰 (50 年)
9050030	アルスコンサルタンツ株式会社 4 級再表彰 (35 年)
9050050	一般社団法人石川県地質調査業協会 4 級再表彰 (35 年)
0050080	旭調査設計株式会社 4 級再表彰 (25 年)
0050100	株式会社不動テトラ北陸支店 4 級再表彰 (25 年)

永年会員表彰

会員番号	氏 名	在会年
8906786	佐藤 昇 氏	35
8500095	筒井 弘之 氏	40
8109266	小林 久男 氏	43
7510011	畠山 正則 氏	49

2) 支部表彰の授与

研究・論文部門

金沢大学 熊 曦 氏

対象論文: Xiong, X., Kobayashi, S., Izumi, H., and Zhang, F. (2024). FEM analysis on isotropic consolidation of unsaturated soils using ceramic disks and microporous membrane filters for suction control.

功績部門 功績賞

金子 敏哉

北陸支部選出理事および副支部長の要職を歴任され支部活動の発展, 現場技術者の技術力の向上に多大な貢献をされました。特に, 新潟地区の研究事業等においては, 委員会の取りまとめや活動推進に尽力されました。

松本 樹典

支部長をはじめとして要職を歴任され, 北陸支部のためにご尽力いただきました。また, 学会, 協会の役員等を歴任され, 学術的な面に加えて現場技術者の技術力の向上に貢献されました。

杉本 利英

富山地区の役員を務められ, 支部行事の運営に尽力されました。液状化しやすさマップの取りまとめに際しては, 多大な貢献をされました。また, 行政と学会を繋ぐ形で

北陸支部の事業展開においても尽力されました。

門木 秀一

富山地区の役員を務められ、学会活動に寄与されました特に富山県開催の地盤工学研究発表会の際には、会計担当として発表会を大成功へと導かれましたまた支部行事の運営に尽力され、現場技術者の技術力の向上に貢献されました

宮島 昌克

石川支部の活動に寄与されるとともに、北陸支部選出理事を務められました。特に、地震災害等における災害調査では精力的な活動を行い、地震防災の啓蒙に努めるほか、地域の防災力の向上に大きく貢献されましたまた、国際地盤災害軽減機構理事長として金沢で国際会議を開催されるなど、北陸地域の地盤工学の発展に貢献されまし

た

岩田 英二

富山支部の支部行事の運営に尽力され、北陸支部選出理事を務められるなど、地盤工学の発展と向上に多大な貢献をされました加えて、行政と学会を繋ぐ形で、北陸支部の事業展開においても尽力され、実務に携わる 現場技術者や行政官の技術の向上に努められました

5. 令和7年度の事業計画

まえぶん

公益出版事業〔公1〕

令和6年能登半島地震被害調査をもとに「液状化しやすさマップ新潟県版、富山県版、石川県版」の改訂を国土交通省北陸地整と協力しながら行う。流水客土技術関連資料集DVDの拡販を引き続き行う。大学の先生方の講師によって実施された「土質力学講座5回シリーズ」の過去三年分の資料を印刷製本する。

調査・研究事業〔公2〕

新規に民間の技術者を対象に中堅技術者交流セミナーをむこう5年間継続して行い、地盤工学の担い手を育成する。引き続き若手、学生会員による支部研究発表会、講習会、講演会、コロキウム、実務者報告会、現場見学会など実施する。

技術推進事業〔公3〕

例年に引き続き災害協定に基づき自治体職員に対する研修会を開催する。だれでも参加できる土質力学講座をシリーズ形式で実施する。セミナー、現場技術者のための講習会、実務者報告会をなるべく対面で実施し、建設コンサルタンツ協会など関連学会協との連携を強化し、支部活動の活性化と新規会員の獲得を目指す。

表彰関連事業〔公4〕

表彰関連事業は支部賞として、論文部門研究功績賞、論文部門研究奨励賞、技術部門技術賞、企画部門企画賞、功績部門功績賞の募集を行い優れた活動・業績を表彰する。

1) 総会・商議員会・幹事会の開催

第65回定例総会は本年の4月に対面とオンライン併用のハイブリッド形式で富山市にて開催する。商議員会は来年の2月下旬に金沢市で開催する。幹事会は年度の早い時期に各地区別に開催し年度予定を確定する。

2) 研究発表会・シンポジウム・講習会、現場見学会の開催

下表は例年のイベントをまとめたものである。各地区のイベント開催日時の平準化をこころがける。

	イベント名	地区名
1	特別講演会（総会、商議員会時）	全県
2	現場見学会	石川
3	とやまジオテクフォーラム	富山
4	現場技術者のための土質力学	石川
5	地盤工学講演会	新潟
6	ジオテクフォーラム	新潟
7	地盤調査法講習会	新潟
8	現場見学会	富山
9	第 90 回土質工学最新情報コロキウム	石川
10	ジオテクフォーラム	新潟
11	富山県職員研修	富山
12	現場見学会	新潟
13	実務者報告	石川
14	実務者報告	新潟
15	第 91 回土質工学最新情報コロキウム	富山
16	ユースネットワーク研究発表会	全県
17	土質力学講座	全県
18	中堅技術者交流セミナー	全県

3) 新規委員会の設立について

- ・中堅技術者交流セミナー実行委員会（仮称）の設立について

主に民間の中堅技術者を対象に密度の濃いセミナーを実施し、地盤工学の担い手、さらに地盤工学会北陸支部の活動の中心技術者として育成することを目的とする。

活動内容は各地区で数名の民間中堅技術者を指名し、指名された技術者全員が年2回程度、5年間継続して、宿泊を伴うセミナーを実施するための委員会とし、委員は主に委員は民間の会社との交渉、セミナー参加者の選定、セミナー内容の作成を行う

- ・公益出版事業推進委員会（仮称）の設立について

公益出版事業を活性化させるための委員会を設立し、「土質力学講座5回シリーズ」の講座内容や若手委員会等の発表内容、過去の講演会資料などをまとめた冊子を印刷製本し、会員に配布したり、販売したりする。

4) 令和7年度役員案

本年度は支部長、三役の2年任期中なので、改選は原則ありませんが、倉重氏の本部理事就任に伴い新潟地区副支部長は保坂先生になっていただきました。商議員、幹事、参与、顧問は随時改選されます。（敬称略）

支部長	高原 利幸	金沢工業大学
副支部長	保坂 吉則	新潟大学
副支部長	古谷 元	富山県立大学
副支部長	小林 俊一	金沢大学理工研究域
幹事長	新保 泰輝	石川工業高等専門学校
副幹事長	金澤 伸一	新潟大学
副幹事長	杉山 茂久	三和ボーリング(株)
副幹事長	玉村 清文	アルスコンサルタンツ(株)
支部監事	高橋 浩之	(株)興和
支部監事	湯川 公靖	北電技術コンサルタント(株)

※支部選出 本部理事 倉重 毅 (一社)北陸地域づくり協会

6. 令和7年度予算

R7年4月1日からR8年3月31日まで	R6年度予算	R7年度予算案
(1) 経常収益		
① 事業収益	821,000	600,000
公益出版事業収益（公1）	(20,000)	(50,000)
印刷物配布収益	20,000	50,000
調査研究・基準事業収益（公2）	(400,000)	(350,000)
講演会等収益	200,000	150,000
見学会等収益	100,000	100,000
研究会等収益	100,000	100,000
技術推進事業収益（公3）	(400,000)	(200,000)
報告会収益	100,000	100,000
講習会収益	300,000	100,000
② 雑収益	1,000	1,000
受取利息	1,000	1,000
③ 他会計からの繰入額	0	0
本部交付金	2,620,000	2,540,000
経常収益計	3,441,000	3,141,000
(2) 経常費用		
① 事業費	1,240,000	1,605,000
調査研究・基準事業費（公2）	(635,000)	(1,250,000)
講演会費	235,000	200,000
見学会費	150,000	100,000
研究会費	250,000	950,000
ジオテクフォーラム・セミナー	50,000	50,000
液状化被害調査委員会	50,000	-
北陸支部防災会議	100,000	-
ユースネットワーク研究会	50,000	50,000
液状化マップ検討委員会	-	50,000
中堅技術者交流セミナー	-	800,000
技術推進事業費（公3）	(500,000)	(250,000)
報告会費	200,000	100,000
講習会費	300,000	150,000
表彰委員会関連費（公4）	(105,000)	(105,000)
表彰委員会費	105,000	105,000
② 管理費	2,160,000	3,555,000
旅費交通費	250,000	150,000
通信費	400,000	300,000
賃貸料	70,000	350,000
消耗什器備品費	50,000	150,000
印刷製本代費	150,000	200,000
会場使用料	20,000	150,000
広告宣伝費	5,000	500,000
図書購入費	5,000	5,000
支払手数料	20,000	30,000
雑費	10,000	100,000
事務局委託費	1,180,000	1,620,000
経常費用計	3,400,000	5,160,000

6. 特定資産の創出につきまして

支部の財務は年間活動費が 300 万円台ですが、余剰金が 1,000 万円に迫ろうとしております。公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律により財務状況は収支相償「公益目的事業に係る収入がその実施に要する適正な費用を償う額を超えないと見込まれるものであること」が定められております。

この法律を遵守するために 2025 年 2 月 20 日の商議員会において積立資金の規定を議決し、積立資金を創設することにしました。通常の支部活動をより活性化することとします。

積立資金については特定の非定常な活動に対して使途と明確化した活動についての準備金なので定常的な活動の資金とは異なりますので 2029 年から 2030 年に支部設立 70 周年の記念イベントを大々的におこない 300 万円の特定資金を積み立ていたしました。

部活動の活性化に関しましては、会員の大部分を占める民間会員への還元、新規会員の獲得につながることを重視し以下の項目を実施する。

- ・ イベント参加費の会員無料化

非会員との差別化を明確にする。

- ・ 中堅技術者交流セミナーの実施

民間技術者の地盤工学の担い手を育成する。

- ・ 既存の委員会の活動

ユースネットワークや表彰委員会、液状化マップ更新委員会の委員会経費を増額する

- ・ 災害協定に基づくイベントを活性化する。

行政との共同イベントを実施し行政を巻き込んだ事業を実施する。

- ・ 公益出版事業を活性化する

過去の講習会の資料や土質力学講座の教材を印刷製本し、会員に無償配布し、非会員には有料販売する。

- ・ 事務局の業務の高度化

イベント参加案内のチラシ化、ホームページの更新、事務局備品の更新、事務委託費の見直し、非会員がイベントに参加しやすいように参加費徴収をウェブ決済システムにより行う。

地盤工学会北陸支部 70 周年事業積立資金規程は令和 7 年 2 月 21 日に 理事で承認されました。

(総則)

第 1 条 この規程は、公益社団法人地盤工学会定款第 42 条第 3 項の規定に基づき、北陸支部設立 70 周年記念事業積立資金（以下「資金」という）の取扱いに関し、必要な事項を定める。

(積立資金の目的)

第 2 条 この資金は、北陸支部設立 70 周年を記念する有意義な事業を北陸支部が主体的に行い、もって地盤工学の振興と社会の発展に寄与するための事業費に使用する。

(事業)

第3条 次の事業を行う。

- 1) 70 周年記念式典
- 2) 70 周年記念講演会
- 3) 70 周年記念誌の発行（支部活動総括、地盤工学に関する社会的動向、座談会、等々）
- 4) 一般市民向け事業（現場見学会、親子参加型イベント等）
- 5) その他、支部活動の公益性および専門性を向上するための事業

(積立資金)

第4条 この資金は、北陸支部会計からの繰入金をもって積み立てる。

2. この資金の積立限度額は、300 万円とする。

(運営)

第5条 この資金の運用について北陸支部商議員会は、必要に応じて運用細則を定めることができる。

(管理)

第6条 この資金は、特定費用準備資金として運用する。

2. この資金の管理は支部長が行う。

(取崩)

第7条 この資金は、2029 年度と 2030 年度に取崩す。

2. この資金を、第3条に規定する事業目的以外には使用しない。

やむなく事業目的以外に使用する場合は、北陸支部商議員会の議決を経て、理事会の承認を得なければならない。

(規程制定・変更)

第8条 この規程は、北陸支部商議員会の議決を経て、理事会の承認を得て制定する。

2. この規程は、北陸支部商議員会の議決を経て、理事会の承認を得て変更することができる。

3. 変更後の規程は理事会承認の日から施行する。

附則

この規程は、理事会の承認をもって施行する。

7. その他

新たにベント案内に使うチラシの例を載せます。



HOKURIKU Branch of The Japanese Geotechnical Society
公益社団法人 地盤工学会 北陸支部

第 5 回

R6 土質力学講座
(初級～応用レベル)

地盤工学会北陸支部では、若手・中堅の実務者を対象とした学びの場を提供する一環として、計5回の「土質力学講座(初級～応用レベル)」を実施しております。
第5回目を2月19日(水)に新潟大学の保坂先生による【液状化 新潟地震から能登半島地震に至る様々な液状化被害がなぜ発生し、危険度をどう予測し、どう対策するかについて、液状化の発生メカニズムを軸に解説する。】の講座を開催します。
この講座を利用して、皆様の土質力学に関する理解がより深まることを希望いたします。
多くの皆様のご参加をお待ちしています。

開催日時 2025 年
2月 19日(木)
16:00～17:30

会場 WEB配信ツール「ZOOM ウェビナー」による配信

演 題 R6 土質力学講座第5回
16:00～17:30 (初級～応用レベル)

新潟大学 工学部
社会基盤工学プログラム 助教 **保坂 吉則 先生**



液状化 新潟地震から能登半島地震に至る様々な液状化被害がなぜ発生し、危険度をどう予測し、どう対策するかについて、液状化の発生メカニズムを軸に解説します。
※講座はCPDの加点対象となっております。(G-CPD 1.5単位)
▼申し込みページQR


■ お申し込み

- ・申込方法：下記URL、またはQRコードからお申し込みください。
<https://forms.gle/U45qE9Cb7gTHJyrU9>
- ・参加費：会員 5,000円、非会員 7,500円、学生 無料
※ご注意：5回分一括した参加費です。途中何回か不参加されても会費は返却いたしません。申し込みは、いつでも各回始まる一週間前まで受け付けます。ただし、会費は参加費の定額です。
- ・振り込みが確認された方には、「ZOOM」入室用のURL・配布資料のダウンロードURL・CPD 受講証明書用紙、ダウンロード URL をお知らせいたします(各回の開催3日前頃にメールにてお知らせする予定です)

■ 主催

HOKURIKU Branch of The Japanese Geotechnical Society
公益社団法人 地盤工学会 北陸支部

〒950-0965 新潟市中央区新光町10番地3
技術士センタービルⅡ7F
TEL:025-281-2125 FAX:025-281-2125
E-mail: jgskoshi@piano.ocn.ne.jp